

شكراً



2024年度 (2023年10月~2024年9月) 活動報告書

NPO法人Piece of Syria



2024年度 活動のハイライト 2023-2024

幼稚園運営 ▶▶▶ p.5

教育危機にあるシリア北西部で 質の高い教育を届ける幼稚園

シリア 生徒 315名、職員 19名

月～金、午前と午後で150名ずつが通う幼稚園を運営。基礎教育や心のケアのアクティビティを通して、小学校の退学率を下げる成果を出しています。昨年度のシリア人スタッフの日本研修を受けて、体験学習・探究の時間などを用いて、昨年と変わらない予算で、より質の高い教育を高めるための工夫を重ねています。

また、保護者向けの研修も実施し、家庭での子どもの接し方を学んだり、幼稚園と保護者との結びつきを高め、地域で子どもたちを支えています。



地域の人たちにとっても
復興の希望に!

心のケアセンター ▶▶▶ p.6

地域で子どもたちを守る基点を

シリア 学生 1,440名(大学生 35名) 教師 200名 保護者235名

戦争に加え、地震の被害を受けて、子どもたちだけでなく大人にも精神的に辛い状況が大きな課題に。心理ケアの専門家を雇い、大人たちへのケアもしながら、地域で子どもたちを支えるためのセンターを運営しました。

支援していただいている
日本の皆さんにいつか
遊びに来てほしい!



校舎の修復 ▶▶▶ p.6

戦争・地震で壊れたままの校舎の修復

シリア 小学校 1校(生徒 250名)

2023年2月に起きた地震、そして2011年から続く戦争で多くの校舎が被害を受けましたが、多くの学校で修復が進んでいます。昨年度の2校に加え、今年度は250名規模の小学校を修復。来年度は特別支援学校の校舎の修復を予定しています。

心のケアが
未来を作る土台に



補習校運営

▶▶▶ p.7

難民としてトルコで生活する シリアの子どもたちに母国語と母国文化を

トルコ 生徒225名、職員8名

シリア国境の街ガズィアンティップで、母国語のアラビア語と、シリアの文化・歴史を学ぶ補習授業を実施しています。2024年6月、代表の中野と坂田が、アーティストや写真家の方々と共に訪問。打ち合わせ、現地調査、そして東京大学とのコラボでの「平和のかけら」ワークショップを実施しました。

行ってみたいと
分からない現地のリアル
に触れました



講演・ワークショップ

▶▶▶ p.11

東京大学・渡邊研究室と
コラボ！東京とトルコで
ワークショップを実施しました

シリアの魅力伝えるイベント開催

日本・オンライン

シリアの文化を学ぶ「教養ゼミ」をオンラインで今年も開催するほか、Peace day特別企画として、シリアの文化保護を行うNGO・アーティストと共に、シリアの魅力伝える企画をオンライン開催しました。対面では、2024年1月に東京大学にて、国連・研究者・企業など様々な立場でシリアに関わる方に登壇いただき、大地震から1年の現状や活動の成果とこれからについて何うハイブリッドのイベントを開催。東京大学・渡邊英徳研究室と協働で小学生向けのワークショップや、トルコ出張の報告会などを実施しました。

NEWS!!

Forbes JAPAN

「いま注目のNPO50」に
選出されました!

- ①政府や市場がとりこぼしてしまう課題に向き合っている
- ②マルチセクターでの協働をリード
- ③社会参加の後押し、ソーシャルキャピタルづくり

の3つのテーマに基づき、社会的影響力、社会的インパクト、重要性、期待度、革新性という観点から、非営利セクター・NPO業界に詳しい15人のアドバイザーボードの推薦に基づき選出されました。



現地活動費

SAKURA幼稚園

教職員 人件費:\$ 33,000
筆記用具、教科書、課外活動費:\$7,000
家賃、光熱費、通園バス等:\$14,750
保護者向けワークショップ:\$2,150

校舎の修復

壁・屋根・電気などの修復 \$ 6,300

心のケアセンター

カウンセリングスタッフの人件費:\$14,400
ワークショップ経費、交通費:\$6,306

補習校(トルコ)

教職員 人件費:\$18,400
筆記用具、教材印刷費等:\$1,300
(自治体の建物を活用し、家賃・光熱費無料)

2024年秋のクラウドファンディングへのご支援、
ありがとうございました!
こうした活動を支えるために
大切に活用させていただいています





【特集】アサド政権崩壊後のシリア

平和を作るために、今こそ支援を。

アサド政権を打倒した反体制派の旗を掲げる生徒たち



アサド政権の崩壊による情勢変化

2024年12月8日、シリアのアサド政権が崩壊しました。

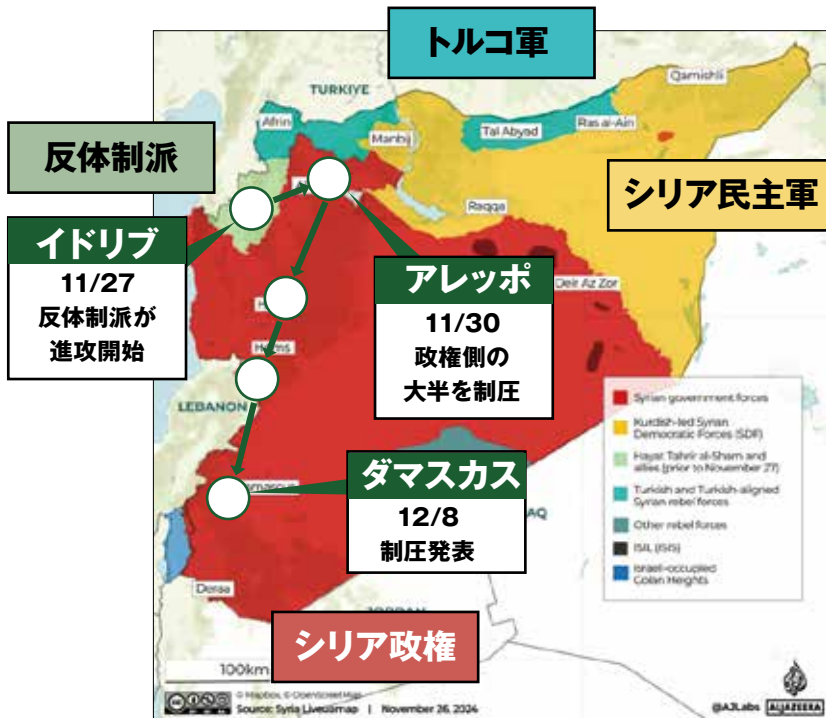
シリアでは、1970年代から、父子二代にわたる独裁政権が続いていました。2011年の「アラブの春」をきっかけに反政府デモが発生しましたが、政権は武力弾圧を行いました。国際社会は対立する両陣営に支援を行い、さらにイラクからは「IS(イスラム国)」が介入するなど、シリア情勢は一層複雑化しました。その後、ISはクルド軍によって撃退され、2018年頃からは戦況が膠着状態に。今後も、長期にわたる膠着した状態が続くと予想されています。

しかし、2024年11月27日、イドリブに本拠地を持つ反体制派を率いる

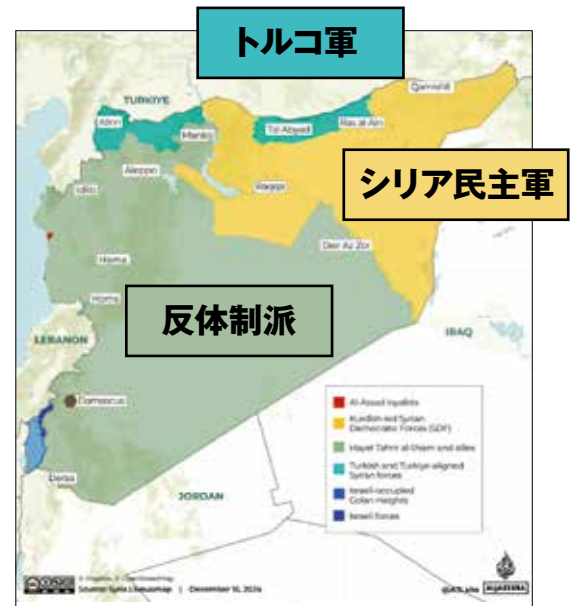
「シャーム解放機構 (HTS)」が、アサド政権支配地域であるアレppo市内に進攻を開始。その後、わずか12日間で首都ダマスカスまでを制圧し、アサド政権が崩壊しました。暫定政権が定められ、新政権樹立に向けて動いています。歓喜の声を上げる市民の声はシリア内外から聞こえていますが、長い戦争による荒廃と対立がある中で、復興・平和への道のりは簡単ではありません。

「シリアをまた行きたい国にする」というビジョンを掲げるPiece of Syriaは、この大きな情勢変化を受けて、改めて支援の必要性を伝えながら、シリアの未来を皆さんと一緒に作っていくための活動を進めていきます。

2024年11月



2024年12月



クルド人主体の「シリア民主軍」とトルコ軍との交戦が続くなど、シリアの分断はまだ続いている。(2025年2月現在)



今こそ支援が必要。戦争で失われた教育・産業・日常

<当たり前だった「教育」が贅沢品に>



戦争前のシリアは、就学率99.6%で、小さな村にも学校があり、質の高い教育が行われていました。しかし、戦争後に就学率は、激戦区では6%まで低下した時期も。政権崩壊後も、教育における課題はまだ多くあります。

戦争前の就学率
99.6%

1/3の子どもしか
学校に行けない

戦争・地震で半壊・全壊したままの学校

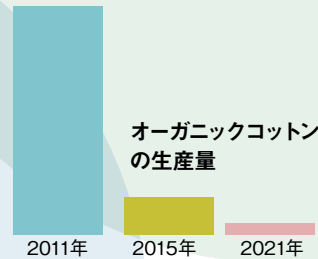


<かつては観光大国・農業大国>

戦争前のシリアは世界30位の観光客が集まる国で、観光業はGDPの12%、労働人口の11%を占めていました。戦争によって、多くの観光地が破壊や略奪を受けて、6つある世界遺産は全て危機遺産となっています。

2011年、インドに次いで世界2位の生産量を誇るオーガニックコットンの生産量(100万トン以上)は、2021年では2万トンまで減少しています。

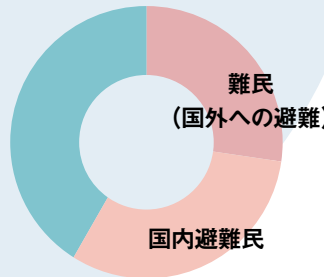
2010年は食料自給率が108%もあり、美食の国として有名なシリアでしたが、2023年には人口の半数以上が食糧不安、15%が飢餓状態となりました。



世界遺産パルミラに残る、多神教時代に建造された神殿や像が破壊の対象に。一部は修復に向けて動いている。

<生きている間にもう家族と会えない…人口の半数以上が難民・避難民に>

戦争前、約2100万人だった人口のうち、約500万人が周辺国や欧州などに避難し、約700万人が国内避難民として他県に移動し人口の半数以上が元々住んでいた故郷を去りました。「生きている間に家族と再会することはできないと思う。数年前までは日常だったんだけどね」とヨルダンで出会った19歳の青年は話していました。



トルコで難民として暮らしていたスタッフが、10年ぶりに訪れた家は砲撃で壊されていた



希望と不安が交錯する中、シリアへの帰還には迷い

「もう二度と、故郷に帰ることができないと思っていた。信じられない…言葉にできないほど嬉しい」と話すのは、難民としてトルコで生活するAさん。彼にシリアに帰るの?と尋ねると「それはまだ難しいよ。シリアには家も仕事もないし、トルコで働いて得たお金を送金して、シリアの家族を養ってきたからね」と。Aさんと同じように、多くのシリアの方々は帰国に慎重です。10年近く難民生活を送り、築いてきた生活基盤を捨ててシリアに戻ったとし

ても、そこで生活が成り立つ保証はありません。「戦争終結」とは言われていません。また人口の9割が人道支援を必要とする状況です。加えて、治安の悪化や対立勢力間の衝突、差別・迫害といった不安定要素それでも、シリア難民を受け入れてきた国々から「戦争が終わったのだから、早く帰国すべきだ」という圧力を感じており、「望まない形で帰国を強いられるのではないか」と不安を抱く声も聞こえています。



「シリアをまた行きたい国に」を目指して、子どもたちに教育を

「シリアをまた行きたい国にする」というビジョンのもと、私たちは活動を続けます。私たちが力を入れるのは、進まない難民帰還の一つの要因である「子どもたちの教育」です。戦争による破壊や離散によって、校舎や教員も不足しています。難民生活の中で十分な教育を受けられなかった子どもたちが、シリアに帰った後に学校に戻っていくことは容易ではありません。そ

のことが、帰還を躊躇する理由の一つになっています。そこで私たちは、補習授業、校舎の修復、教員トレーニングを通じて、かつてのシリアでは「当たり前」だった教育を取り戻します。そして、シリアの平和構築と復興を進め、皆様と共に平和なシリアに遊びに行ける未来を実現します!引き続きの応援、どうぞ宜しくお願い致します。



幼稚園の役割とは: 厳しいシリア情勢のなかで、教育の土台を作る

シリアでは戦争によって多くの学校が破壊され、子どもたちの多くが学校に通うことができていません。私たちの活動地であるシリア北西部では、学齢期児童の中退率は55%。さらに、小学校を退学した子どもの85%が強制労働に従事していると言われています(2024年9月)。こうした厳しい状況の中、幼稚園は退学率の低下に大きな役割を果たしています。現地NGOの調査によると、幼稚園に通っていない子どもの約8割が、小学校に進学しても途中で退学してしまうと言われています。その背景には、小学校教育の質の低さがあります。戦争や地震によって校舎が破壊され、教室が不足しているため、1クラス70人もの児童が詰め込まれることもあり、教師が一人ひとりに十分な指導を行うことができません。また、多くの教師が無給で働いており、副業の疲れから授業に集中できなったり、生活のため

に別の仕事を優先せざるを得ず、教師不足がさらに教育の質の低下を招いています。

そのような環境下でも、幼稚園で楽しく基礎教育を学ぶことで、小学校の授業についていくための土台を築くことができます。さらに、戦争の影響で治安が悪化し、多くの子どもが家に閉じこもり、友達と遊ぶ機会を持っていないことが、学校を離れる一因となっています。しかし、安心・安全な環境の幼稚園で友達と過ごすことで、集団生活に慣れ、学校生活への適応力が高まります。また、不安を抱える子どもたちにとって、幼稚園は心のケアや社会性を育む場ともなり、小学校以降の継続的な学びを支える大きな役割を果たします。



「友達と遊ぶのが楽しい!」と話す生徒たち。これも成果となる厳しい環境



幼稚園での学びと経験が小学校以降も学び続けられる基礎を作る



SAKURA幼稚園: 基礎教育と心のケア、日本研修を活かした体験学習

幼稚園の重要性から、私たちはシリア北西部で「SAKURA幼稚園」を運営しています。幼稚園名には「教育を通じて平和を築いた日本から学びたい」というシリア人スタッフの願いが込められています。現在、4~6歳の約315人の子どもたちに、**基礎教育(読み書き・計算・理科)**と、**チームワークや心のケアを目的としたアクティビティ**を行っています。

シリアの幼稚園では暗記学習が一般的です。しかしSAKURA幼稚園では遊びを重視し、昨年度に日本で研修を受けたスタッフの工夫で、探求・体験型の学びを取り入れています。お絵描きや折り紙などの創作活動に加え、植物や動物に触れる自然観察、病院や消防署、農家を訪れる職業体験などを実施。グループワークを多く取り入れ、協力しながら学ぶ経験を積む

ことで、社会性やコミュニケーション能力の向上を図っています。さらに、音楽やリズム遊びを通じて表現力を育み、演劇や発表会では自信を持って人前に立つ経験を重ねています。こうしたアクティビティ作りには、教育専門家・心理ケア専門家が加わり、先生の質の改善のための研修を実施したり、戦争や地震の影響でストレスを抱えた子どもたちが、安心できる環境の中で**遊びや学びを通じて心の安定を取り戻せるよう**努めています。

こうした取り組みの結果、SAKURA幼稚園の卒園生が地域の小学校で「SAKURA幼稚園の卒園生は学習意欲が高く、成績も優秀」との評価を受けており、退学率も大きく改善することができています。



消防署にて「この先、地雷あり」の看板について学ぶ生徒たち。
地域では不発弾・地雷の被害も出ている



経済・治安の問題から家の中に閉じこもりがちな
夏休みはサマーコースを実施



卒園式では歌やダンス、工作など、
幼稚園で学んできたことを保護者の前で発表



保護者向けワークショップ:子どもたちとの接し方を学ぶ



SAKURA幼稚園の保護者100名を対象に、計10回のワークショップを開催、子どもたちとの関わり方についての教育専門家による講義と、家庭で実際に起こった課題を共有し、どう解決できるかのディスカッションを行いました。参加した保護者からは「子どもの話をしっかり聞くことで、子どもの表情が明るくなった」「以前よりも親子の会話が増えた」といった声が寄せられ、参加者の90%が子どもとの関係が改善しました。また、園児の出席率、宿題の提出率も向上する成果も生まれています。さらに、保護者と幼稚園運営・教職員側とのコミュニケーションの場となり、先生と保護者とが協力して子どもたちを支える環境を作っています。



地震で壊れた学校の修復: 地域に復興の希望を届ける

2023年2月、シリアを大地震が襲いました。しかし、1年が経った後でさえ、予算不足からシリア北西部では3割の学校が修復できていませんでした。そこで、昨年度の2校に加え、今年度も250名規模の小学校の修復を実施しました。学校の修復は単に建物を直すだけでなく、地域の心を癒す大きな一歩でもありました。地域の人たちは「子どもたちの教育環境が確保されたことで、未来に対する不安が軽くなったよ。学校は、地域の復興と安定の象徴だね」と語っています。現地スタッフからは「シリアには8000もの学校の校舎が壊れたままなんだ」という声もあり、2025年も学校の修復を実施予定しています。



心のケアセンター: 地域で子どもたちを支える仕組み作り

シリアでは長引く内戦や経済的困難、さらには地震の影響により、精神的ストレスやトラウマを抱えています。特に、戦争や避難生活の影響で学校に通えず、社会的孤立や学習意欲の低下が深刻化しています。子どもの32%が悪夢や睡眠障害に苦しんでいますが、必要な精神的ケアを受けられていない人は89%にのぼります。この状況を受け、心理ケアの専門家を雇用して「心のケアセンター」を1年間運営しました。10校・1,440人の生徒(大学生35名を含む)を対象に、心のケアを実施。個別相談のほか、感情を表現するワークショップ、自己肯定感を高める対話セッション、時間管理やコミュニケーションスキルを学ぶライフスキルの研修を実施。成果として、多くの子どもたちが学校に戻ることができ、精神的な安定が確認されています。また、200人の教師、235名の保護者を対象に、メンタルヘルスと教育支援のトレーニングを実施。特別支援が必要な生徒やトラウマを抱える生徒への適切な対応法を学ぶ研修、そして大人たち自身が心の健康を維持するためのセルフケア研修を行いました。大人たちにもケア・研修を行うことで、地域全体で子どもたちの心を支えることができる環境を作りました。



私自身、以前は職場での問題や家庭でのストレスで辛かったのですが、専門的なケアを受けて改善しました。また、子どもたちへの接し方や、授業に取り入れられる自己表現のセッションを学べたことで、生徒たちにとっても非常に良い成果が生まれていることも報告したいです。戦時下で大きなストレスを抱えた子どもたちが、学校を楽しめるようになり、先生やクラスメイトと良好な関係を作ることができるようになりました。もっといい授業ができるように、私も頑張りますね!日本の皆さんのサポートに心から感謝しています!



研修に参加したレイラ先生

受け継がれた想いが生む希望

心のケアセンターの設立・運営は、小林 信雄様のご遺産によるご支援で実現しました。本プロジェクトの開始に向けて相談させていただいた小林様のご息女・麻由子さんは、「父は生前、一度も寄付をしたことがない人でしたが、亡くなる1週間前に突然ぼつり『どこかに寄付をしたい』と。世の中に何かを残したかったのでしょうか。シリアの未来を作ることに貢献でき、父も天国で満足していると思います。ありがとうございます」と話してくださいました。遺贈寄付は、大切な想いを未来へとつなぐ方法のひとつです。ご関心がある方はぜひ、当団体までご相談ください。

小林様宛の感謝状を持つスタッフ





補習校運営:いつかシリアに戻るため。母国語と母国文化を届ける

トルコは最も多くのシリア難民を受け入れており、シリア国籍を持つ約70万人の子どもたちはトルコで生まれ育ち、母国を一度も見たことがない世代となっています。彼らはトルコ社会で生活するため、日常的にトルコ語を使用し、学校でもトルコ語で授業を受けています。そのため、母国語であるアラビア語を学ぶ機会が極めて限られており、多くのシリア難民の子どもたちは、アラビア語の読み書きができない状況にあります。また、難民に対する差別・迫害から、冠婚葬祭などの伝統的な行事や伝統音楽も行われにくくなっており、シリア人としてのアイデンティティが失われつつあることが指摘されています。

そこで私たちはトルコ南部、シリア国境近くの街で補習校を運営しています。6～15歳のシリアの子どもたち約225名を対象に、**母国語であるアラビア語の読み書きや、シリアの歴史や文化を学ぶ機会を提供**しています。シリア人がトルコで住み続けられる保証はなく、強制的にシリアへの帰国を強いられたケースも聞いており、その傾向はアサド政権の崩壊によって加速する可能性があります。しかし、アラビア語の読み書きができず、シリアの文化や社会を知らない子どもたちがシリアへ帰国した場合、新たな環境での適応が困難になり、教育や仕事の機会を失うリスクが高まります。そのため、補習校の役割は、ますます重要になっています。



博物館やブックフェアなどの遠足を月に1度実施



「来ることが楽しい!」と感じられる場所作りも大切



ダンスやアートの時間で自己表現を学ぶ場を

補習校に通うファティマさんのストーリー

ファティマさんは恥ずかしがり屋の14歳で、入学当初、控えめでおとなしく、また、母国シリアについてよく知りませんでした。そこで、補習校の先生は絵やゲームを使いながら、アラビア語やシリアの地理を教えました。そして今では、他の子どもたちと一緒に遊び、学ぶことに積極的に参加するようになりました。「私の目標は、先生になって、遊びや絵、ゲームを通して自分たちの国であるシリアに親しんでもらい、学んでもらうこと。そして、自分たちの国の将来について考えて行動する生徒たちを育てていきたいな!」と話してくれました。



出張に行ってきました



2024年6月4日～7月7日まで、代表・中野がアルメニア・レバノン・トルコ・ヨルダンに出張しました。アルメニア・レバノン・ヨルダンでは新しいプロジェクトの協働のために、様々なNGO・組織・個人を訪問しました。国ごとにシリアの人たちの事業が異なる中で、何が出来るかを今後も模索していきます。

活動地のトルコでは、広報・ファンドレイジング職員の坂田と合流。さらに日本の若者支援NPO代表、映画監督、写真家、ミュージシャン、経営者、広報会社など多様な背景を持つ有志と、現地で集合して、シリア人の家庭訪問・NGO訪問、そして補習校の見学と生徒の家庭訪問などを行いました。「**Piece of Syriaのやっている活動の重要性がより深く理解できた**」「**伝わりにくい課題に向き合ってることがよく分かった**」という感想とともに、応援いただく方を増やすために、経営者の集まりでの講演会の企画や、「企業版ふるさと納税」を用いた資金調達、シリア文化を伝えるための新規事業の協働など、様々な活動に繋がっています!今後の新しい挑戦にぜひ、ご期待ください!次のページでは、一緒にトルコを訪れた写真家キセキミチコさんのコラムをお届けします。



Syrians in Turkey

写真家 キセキ ミチコ



キャンプではなく家賃を支払って生活する



私はいろんな国の文化、宗教、生活、そして、人に興味を持ち、いろんな場所へ旅をしながらそこに住む人々の小さな声を拾い、小さな声を撮っている。

2024年6月、Peace of Syriaの中野さんに誘われて、多くのシリア人が逃れているトルコに向かうことになった。以前からPeace of Syriaを通してシリアのことは認識していたものの、まだまだ私の中では漠然としていたのだ。6月16日、中野さんたちが待つトルコへ一人で向かう。以前トランジットで十四時間ほど滞在をしたトルコ・イスタンブールだが、あまり記憶がなく色々新鮮!!

空港から一旦ホテルへ寄って、シリア人の音楽家たちが演奏しているというレストランへ向かう道中、6月下旬イスラム教の現地はちょうど犠牲祭にあたり日本というとお正月らしいのだが、色々目と目が向き、レンズが向き、わくわくで寄り道ばかりしてまっすぐにたどり着けなかった。

「難民」のイメージと実際

2011年から続くシリアでの内戦を逃れトルコにやってきたシリア人難民は約三百万人。そのほとんどの人は現在、トルコの難民キャンプではなく街中で生活している。今回たくさんシリアの方々の家を訪問したのだが、難民というイメージの想像をはるかに超え、立派な素敵な家に住み、日本以上におもてなしの精神を持ち迎え入れてくれたことにとっても驚いた。

しかし、彼らは難民という括りにされてしまっけれど、決して望んでやってきたわけではない。HOMEを奪われ、ここで彼らの文化を継承し、生活し、地に足をつけ力強く生きていく。トルコへ避難して長いこと生活していく中でトルコで生まれた子供もたくさんいる。

失われつつあるルーツ

彼らは流暢にトルコ語を話す一方で、自分達のルーツであるアラビア語を学ぶチャンスもなく忘れていくという。また、シリア人ということでの差別やいじめもある。多くのシリア人がシリア国外に避難している中で、シリアの文化や伝統、言語が継承されないのは、大きな問題の一つだ。その中で教育支援をしているのがNPO法人Peace of Syriaだった。6月、私は9日間という短い滞在ではあったけれど、トルコでたくさんの方と出会い、たくさんの方の声を聞いてきた。

その中の一人が、イスタンブールで、音楽家として活動しているフセインさん。長い坂道の途中のアパートの半地下に一人で暮

らしていた。半地下とはいえ間取り2Kで、質素ではあるけれど小さな中庭もあり、斜めに入ってくる光がとても心地良かった。長身でとても物静かなのに、ふいにギャグを差し込んでくるからなんとも面白いフセインさん。そんな彼に最近幸せだったことを聞いてみた。フセインさんはシリア楽器のウードを片手に、話してくれた。

「最近幸せを感じたことは？」

「最近幸せだったことか...覚えてないかな。でも、遠い昔に家族みんなでお飯を囲んで、ご飯を食べたんだ。誰一人欠けることなくね。その時はそんなことが幸せなことだと思わなかったけど、今となってはそれが幸せなことだったんだと思うよ。今は、母も兄も亡くなってしまったし、もう2度とあの時のように家族みんなが集まることはできない。彼の滞在ビザがイスタンブールという街から出ることでできない為、お母さん、お兄さんが亡くなった時でさえ、遠く離れたイラクにいる彼らの元に駆けつけることができなかったという。そしてもうひとつ、私達に伝えてくれた。

「発言の自由と移動の自由があることはとても幸せなことなんだ。今の僕にはないからね。」

今の夢は自分の曲を作ること。そして、恐れることなく生きていくと言ったこと。だということ。私はこの話を聞きながら、前日の朝フセインさんを囲みながらみんなで美味しいシリアの朝ご飯を食べたのを思い出していた。

私もみんなも、静かに流れる涙を止めることができなかった。



キセキ ミチコ(写真家)

ベルギー生まれ。ミュージシャンのポートレート、ライブ写真、広告写真などを手掛けながら、個展、グループ展などを多数開催。数々の写真賞に入選。2017年、日本の田舎に憧れを抱いて撮った写真集[DRYNESS]を私家版写真集として発刊。幼少期育った香港を訪れ、長期滞在口ケのため渡航時に、香港民主化デモに遭遇。間違ったことに声をあげる人々の戦いに心が震え、泣きながら最前線で写真を撮り続ける。2021年、第4回写真出版賞大賞受賞。2022年2月「VOICE香港2019」を刊行。写真家として改めてスタートラインに立つ。「自分の気持ちに正直に写真を撮る」を信条に、写真と向き合っている。

<https://kisekimichiko.com/>



スタッフの声

2024年12月、シリアのアサド政権が崩壊し、新たなシリアに向けた大きな変化の時を迎えています。しかし、この報告書を執筆している現在も、シリアの戦争が完全に終了したわけではなく、戦闘や混乱は続いており、今後の情勢を慎重に見守る必要があります。

また、たとえ戦争が終わったとしても、すぐに日常に戻るわけではありません。長引く戦争によって破壊されたインフラや経済、そして人々の心をどのように回復させていくのか—この大きな課題に、私たちはこれからも向き合い続けなければなりません。

この変化を受け、私たちは改めて「シリアをまた行きたい国にする」というビジョンを見つめ直し、皆さんとともにその実現を目指して歩んでいきたいと思えます。新しく、そして厳しい挑戦が続きますが、どうかこれからも力を貸してください!温かなご支援、本当にありがとうございます。



代表理事・創設者
中野 貴行



副代表理事
金澤 鮎香

Piece of Syriaを応援いただいている皆さま、本当に有難うございます。昨今シリアにとって激動の情勢が続いています。そんな中、シリアの人々に寄り添い、求められている支援を届け続けることができている。それは一重に応援して下さっている皆さまあってこそです。シリアという土地柄、毎年毎年が変化の年ですが、我々もポジティブな方向へ変化し続けながら、シリアの人々に寄り添い続けていきたいと思えますので、温かく見守っていただけたら嬉しいです。

日々、ご支援して下さる皆さまのあたたかいお気持ちを糧にしながら、業務に励んでいます。2024年は、シリアが大きな局面を迎えた年でした。それと同時に、組織内でも新たな課題にぶつかり、それを乗り越えるために多くの試行錯誤を重ねた一年でもありました。刻一刻と変化するシリアの状況、世界の状況を見据えて、より一層柔軟性を持った活動ができるよう、組織として成長していきます。2025年も、より多くの方々と手を取り合いながら、シリアの未来のために尽力してまいります。



事務局長
鈴木 のどか



ファンドレイジングマネージャー
島 彰宏

いつもシリアの人々に想いを寄せていただき、そしてPiece of Syriaの活動を応援いただき、心より感謝申し上げます。2024年4月からPiece of Syriaの職員として活動に携わる中で、皆様からのご支援の大切さを日々実感しています。皆様のあたたかいご支援が、戦禍を乗り越え、未来を築こうとするシリアの人々の力強さにつながっています。2025年はさらに変化のある年になりますが、これからも皆様と共に平和づくりを一緒にできることを願っております。

いつもPiece of Syriaを応援くださるみなさま、本当にありがとうございます。こうして応援くださるみなさまのお陰で、変化の大きなシリアで活動を続けていけるのだと心から感謝申し上げます。不条理に奪われた「日常」を取り戻した先に、シリアをまた行きたい国するという、ビジョンの達成があるのだと思えます。これからもみなさんと一緒に平和な未来を目指して活動していきますので、どうか温かく見守っていただけましたら嬉しいです。



広報・ファンドレイジング
坂田 実緒子

Column

「プロボノ」としてPiece of Syriaに関わって

※プロボノとは「仕事で培った専門的なスキル・経験等をボランティアとして提供し、社会課題の解決に成果をもたらす方」のことです



(元)海外事業管理
Shiho

社会人プロボノとしてPiece of Syria (PoS)の海外事業管理に携わり、海外事業を担当する中野やシリア人スタッフとの定期的な会議での進捗管理、契約書類の作成などを担っていたShihoさん。現在は大学院進学のため団体を離れていますが、「PoSでの経験があったからこそ、ハーバード大学ケネディスクールへの進学が叶った」と振り返ります。

「PoSでの活動を通して得た経験は、大学院進学の際に大きな支えとなりました。単なる理念ではなく、実体験に基づいたストーリーとして志望動機を語る事ができたのは、とても貴重でした。実際にトルコの現場を訪れ、現地の子どもたちやパートナーと直接関わる機会を得たことも、その一部です。『世界をよくしたい』という抽象的な思いではなく、具体的な経験に基づいた説得力のある志望理由が評価されたのだと思えます。国際支援というと、『かわいそうだから助ける』という上から目線の意識がある場合も少なくありません。でもPoSには、スタッフだけでなく支援者の皆さんも同じ目線で支え合う一体感があります。丁寧な情報発信と密なコミュニケーションを通じて、支援者の皆さんとともに『才能ある子どもたちを応援する』という前向きな気持ちで関わることが、とても素晴らしいと感じています。ビジネスで培ったリーダーシップを、公共の場や社会課題の解決にどう活かすかを常に考えています。大学院卒業後もPoSとの関わりを続けながら、自分の強みを最大限活かせる国際貢献のあり方を模索していきたいと思っています。」

皆様のご支援が、子どもたちの未来を切り拓いています

教育は社会のすべての人々に関わるものであり、国全体の発展に直結します。

幼稚園は子どもの人格形成や能力発達に重要ですが、アサド政権下のシリアでは経済危機の影響で、多くの家庭が高額な入園費用や教育用品の負担により入園を断念しています。そのため、一部の母親は子どもを近隣や親戚に預けざるを得ず、同世代の子どもたちと学び遊ぶ機会を失っています。

幼稚園教育の目的は、子どもの社会性の向上、問題解決能力の育成、望ましい行動の習得にあります。

2024年、Piece of Syriaの支援により、公立小学校の教育の質向上を目的としたプロジェクトが実施され、SAKURA幼稚園が小学校入学支援の基盤となりました。昨年は350人の子どもが幼稚園を卒業し、公立小学校に進学しました。

また、トルコの補習校では、アラビア語を十分に学べていないシリアの子どもたちが母語教育を受け、2024年には250人以上がアラビア語を習得し、シリアの公立学校へ入学しました。

皆様のご支援が、子どもたちの未来を切り拓く力となっています。引き続きのご支援をお願いいたします。



現地プロジェクト
マネージャー
ウサマ



SAKURA幼稚園
マネージャー
アナス

新しいシリアを構築するため、引き続きのご支援を

これまで、Piece of Syriaの活動は教員の育成を重点的に進め、シリアの教育の質の向上に大きく貢献してきました。日本の友人の支援により、戦争で破壊された三つの学校が復旧し、約2,000人の学生が利用できるようになりました。これらの教育プロジェクトは戦争中のシリアの子どもたちに大きな利益をもたらしてきました。

2024年の12月にシリア戦争が終了した今、私たちシリア人は8,000学校の再建を目指し、新しいシリアを構築するために計画して実行しています。2012年から続けてシリアの子どもたちに手をさしのべてくれた日本の友人のみなさんに、新しいシリアの未来を創り上げるため、これからも教育プロジェクトの支援を強く願っています。

Panasonic
NPO/NGO サポートファンド
for SDGs

3年目の組織基盤強化が完了しました



Panasonic NPO/NGOサポートファンド for SDGsのご支援を受け、2024年1月から1年間、組織基盤強化事業を実施しました。当助成事業は、2020年、2021年にもご支援を受け、団体の創成期を支えていただき、昨年が最終年度である3年目の事業でした。「組織の新しいフェーズに向けた総合的な組織基盤強化プロジェクト～仲間と共に成長し続ける持続可能な組織モデルへ～」と題し、これまでの総まとめとなるよう、ファンドレイジング・海外事業・経営とそれぞれのチームが効果的に動ける組織体制を目指しました。それぞれのチームを伴走支援してくださった方々にコメントをいただいています。

🧩 ファンドレイジング: 島彰宏さん(外部専門家から職員へ)

2023年3月から1年間、外部専門家としてファンドレイジング(資金調達)のサポートをしてきました。そして、そのご縁もあって、2024年4月からPiece of Syriaの職員として活動しています。たくさんのご支援の輪をさらに力強く、そしてさらに大きくするために、体制強化を実施、そして、支援者の皆さま、社会とのより良いコミュニケーションづくりに努めてまいりました。Piece of Syriaが新しいフェーズに向かうために必要な体制作りをチームで進めることができているのであります!

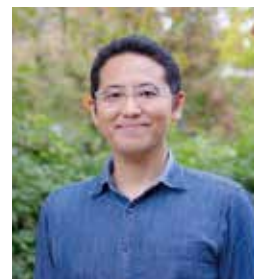


🧩 海外事業: ヨーセフ・アルファーリスさん(フリーランス)

昨年、私はプロジェクトを効果的にモニタリング・評価するためのツールを開発、実装しました。これによって、継続的にプロジェクトを発展させるための強固な基盤を確保しました。特にSAKURA幼稚園においては、保護者や教員の意見への対応を強化するために、苦情対応のメカニズムが確立されました。私はプロジェクトマネージャーのウサマと定期的に調整し、届いた意見を効率的に管理および対応しました。私たちの協力は、教育局との問題の処理、特に幼稚園に関連する懸念への対応にまで及びました。この積極的なアプローチにより、プロジェクトの完全性とステークホルダーとの関係が強化されました。

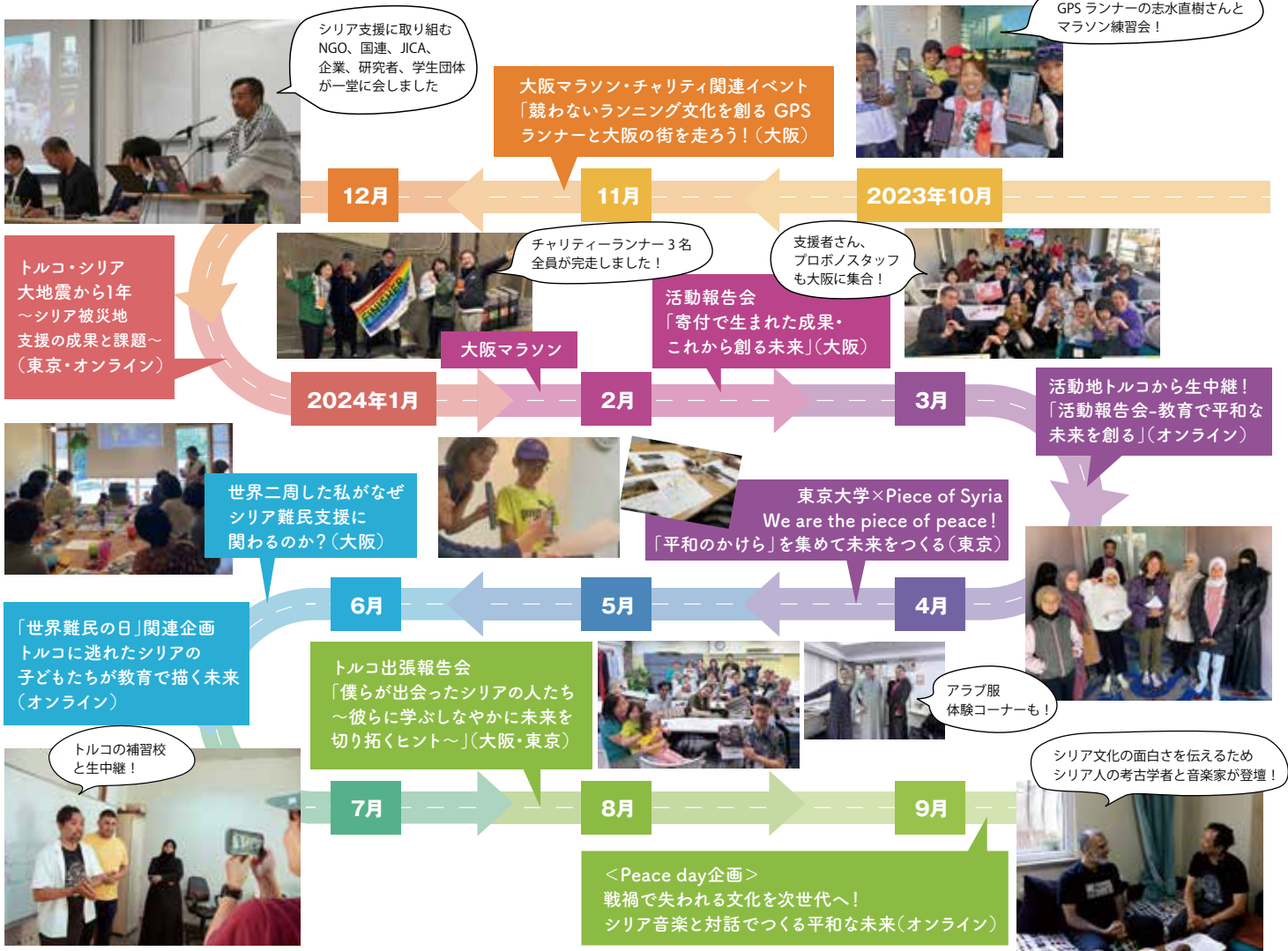
🧩 経営: 河合将生さん(office musubime代表)

「荒波を進む小舟」から、「さらなる荒波を突き進む複数の船団」へ。
組織基盤強化を振り返って思い浮かべるイメージです。法人化とともに組織を整え、事業の拡大と急速な成長の中、運営の「量と質」も対応を求められ、それを支えるファンドレイジングと経営に必死に取り組みながら、チーム(船団)をつくってメンバーの参加・協力を広げ、深い、外部の力も得ながら、成長を支える基盤をつくり、壁や課題にぶつかりながら、仲間とともに真摯に向き合い、舵取りを行ってきた基盤強化プロセスだったと思います。ステージと外部環境が急速に変化する中、「ビジョンや理念の魅力と共感」と「ビジョン実現に向けたチャレンジ」、「仲間の豊かさ」と参加・協力、期待・信頼、「声を聞く姿勢と対話・話し合い」「頼る力」はPiece of Syriaの強みであり可能性の源泉だと感じています。応援しています。



シリアの魅力伝える

難民・戦争という切り口で語られることが多いシリアですが、私たちは「課題ではなく、魅力を伝える」をテーマに、シリアの文化や生活、人の魅力について発信することを大切にしています。その一つが「シリアを学ぶ教養ゼミ」で、クラウドファンディングのリターン、そして、継続寄付会員の方限定でお届けしています。ここでは、オンライン・対面、SNSなどで実施してきたイベントをピックアップしてご紹介します。



2024年度 講演実績

※開催地記載がないものはオンライン開催

- 尼崎人権啓発協会「じんけんスタディツアー」
- 子連れMBA「チェンジメーカー・トーク」
- teamハチドリ「子どもとどう平和を語ったらいいですか?」
- オリーブ学園「シリアの平和活動から考える“夢”と“当たり前”」
- 八尾市国際交流センター「世界を知ろうー国際協力の現場からー」(大阪)
- 兵庫県立グローバルリーダーシップ研修
- 東京中小企業家同友会 国際ビジネス支援部会(東京)
- 刈谷北高校、神田外語学院、IFMSA-Japan(国際医学生連盟)、IWPG、名古屋市立緑高等学校(愛知)、名古屋学院大学(愛知)、関西創価高等学校(大阪)、大阪市立阿倍野小学校、アサンプション中学校(大阪)、サロン・ド・マンガカルチャー



講演依頼を受け付けています
学校講演・企業研修・国際理解・SDGs研究

講演のご依頼は、右記QRコードから、お気軽にお問い合わせください。内容、対面、オンラインなど、ご希望に合わせて実施いたします。





支援者様からのメッセージ



シリア刺繍ブランド
「Ahlam-アハラーム」代表
為定 時 さん

信頼の理由は、発信の姿勢

ピースオブシリアを信頼して応援できる理由は、善悪を発信しないからです。特定の政権や団体などに対して、あれはいい！これはダメだ！ということは絶対に発信しない。こういった価値観の押し付けは平和とは程遠い。という信念を感じますし、リスペクトしています。アンバサダーとして近くで活動を見させていただいて、ネガティブな課題はきちんと提示しつつも、明るく取り組んでいて“前にしか進まない”ところも信頼できます！



高校教員
杉本 規彦 さん

生徒たちの心に火を灯す活動

教育の可能性を信じ、「シリアをまた行きたい国にする」という夢を育てる活動にとっても魅力を感じて参加しました。私の勤務校で行った中野代表の講演では、生徒たちが目を輝かせて聞き入り、終了後に自身の思いを涙ながらに伝える生徒もいました。「微力だけど無力じゃない。世界を変えるのも一人から始まる」と笑顔で語るスタッフの皆さんとともに、Piece of Peaceの誇りをもって支援を続けていきます。



アドバイザーの方からのメッセージ

Piece of Syriaは、アドバイザーボードを作り、紛争下や難民状態にある子ども達への教育支援のご経験のある先生方からの現地プロジェクトのアドバイス、経営者の方から経営面のアドバイスを定期的に受けております。



上智大学 総合人間科学部教育学科
小松 太郎 教授

Piece of Syriaが、シリア国内で幼稚園を運営し、子どもたちが多様性や寛容さを学ぶ機会を提供していることは、将来の国づくりにおいて非常に重要です。幼少期のこうした学びが、平和な社会を築く基盤となっていくからです。長期にわたる戦争でインフラもまだ整っておらず、人材育成に対する支援はまだまだ手薄な状態が続くと思います。そこで、日本からのシリア支援が本格的に始まる際に、PoSが現地目線での情報を通して、支援のニーズを把握していくことができると良いと感じています。PoSには、目の前にある課題に対する活動も継続しつつ、シリアの国作りに関わる、中長期的なビジョンを示し、シリアの教育と復興を支える役割を期待しています。



株式会社アピタシオン 相談役
大原 和司 さん

現地に幅広い人脈を有し、現地情報に精通するPiece of Syriaの重要性は、現地の人にとっても、日本にとっても、ますます増すばかりです。そして、Piece of Syriaが活発に活動し、シリアの人々の支援を続けるためには、団体の経営を安定させる継続的な国内のサポーターがもっと必要だと思います。昨年代表の中野さんがニュースウィーク誌の「世界が尊敬する日本人 100」に選ばれたことは、活動を認知し評価してもらえるよいきっかけになったと思います。国内で、世界を飛び回る中野さんのお話を直接聞ける機会を作れば、地元の人々や子供たちにとって、とてもよい経験になると思います。



Piece of Syriaのインターン制度

Piece of Syriaでは、2024年度より本格的にインターンの受け入れを開始しました！今年度は計3名のインターン生 が、フルリモート勤務であることを活かし、国内外から参加してくれました。広報企画や、海外ファンドレイジング、シリア難民調査などそれぞれの興味関心・得意分野に合わせて活動し、活動を盛り上げてくださっています！2024年4月～10月の半年間活動し、現在はアメリカの大学院に通う岡田さんから、インターンを終えての感想をいただきましたのでご紹介します。



コロンビア大学
スクール・オブ・
プロフェッショナル・スタディーズ
交渉・紛争解決修士課程
岡田 花凜 さん

私がPiece of Syria(PoS)のインターンに興味を持ったきっかけは、団体のSNSに掲載されている子どもたちの写真でした。インターン生になってからは、子どもたちの笑顔を絶やさないために日本とトルコで日々行われている活動の一端を担う立場として、責任感を持って動くように務めました。現地NGOのスタッフさんとやり取りをして子どもたちの様子や教育について正しく伝えたり、PoSメンバーの皆さんにインタビューする企画を行ったりする中で、私はシリアの人々とPoSメンバーの皆さんが子どもたちの未来に懸ける温かく、強い思いに触れました。

先が見えない国際社会の中で、PoSのような活動を少しでも広げ、伝えるために、能動的に活動していきたいと思います。

Piece of Syriaラジオ～NGOスタッフの裏話～
と題してポッドキャストも始めました！▶



たくさんの方に支えていただきました

Piece of Syriaが、継続してシリアの子ども達に教育を届けられているのは、いつも支えてくださる皆さまのおかげです。2024年度は、継続・単発・クラウドファンディングなど様々な形で、約590名の方々にご寄付をいただきました。一部とはなりますが、ご寄付・ご助成いただいた個人・法人の皆さまをご紹介します。

京子 様	小笠原 功雄 様&正恵 様	Takeyori Hara 様	平井 佳亜樹 様	中山 迅一 様
				
				公益財団法人 毎日新聞 大阪社会事業団 世界子ども救援金
	公益財団法人 大阪コミュニティ 財団	公益財団法人 庭野平和財団		

そして、2024年度にご寄付いただいた約**590名**のみなさま、ありがとうございました！

》メディア掲載

- 中日新聞:「シリアは『豊かで優しい国』羽島北高で滞在経験者、現地の文化や生活語る」(2023年10月3日)
- NHK WORLD:【Direct Talk】Educational Opportunities for Syrian Children(2024年3月)
- COCOCOLOREARTH ニュース:「久保田 賢一教授(関西大学)小松 太郎教授(上智大学)が教育事業のアドバイザーに就任」(2024年4月9日)
- J-Wave: Across the sky「WORLD CONNECION」(2024年5月19日)
- J-Wave: JUST A LITTLE LOVIN(2024年6月17日~6月20日)
- Forbes Japan 12月号:「いま注目のNPO50 日本を動かし社会を変える、新たな主役」(2024年10月23日)
- NHK 静岡:「シリア政権崩壊 NPO法人がクラウドファンディング」(2024年12月13日)
- 読売テレビ「ウェークアップ」:アサド政権崩壊に際しての中野出演(2024年12月14日)
- テレビ朝日 ワイドスクランブル:アサド政権崩壊に際しての中野出演(2024年12月16日)
- NHKラジオ第一「Nらじ」:「戦争で奪われた教育の権利 シリアの子どもたちの希望」(2024年12月18日)



NHK WORLD



J-Wave「Across the sky」



J-Wave「Just A Little Lovin'」



Forbes Japan12月号

2023年度 活動計算書

(本報告書のタイトルは便宜上“2024年度”としていますが、活動計算書は実際の会計年度に即した表記“2023年度”とさせていただきます)

2023年10月1日～2024年9月30日

(2024年9～10月に実施したクラウドファンディングは2024年12月の入金のため、2025年度活動計算書にてご報告いたします)

科目	金額(単位:円)		
	前期 (令和4年度)	今期 (令和5年度)	
経常収益			
受取寄附金	34,401,544	23,421,070	①
受取助成金等	5,911,111	4,313,639	②
事業収益	275,311	462,473	③
その他収益	106	21,143	
経常収益計	40,588,072	28,218,325	
経常費用			
(1)事業費			
給料手当	392,604	2,694,270	④
法定福利費	83,658	326,849	
業務委託費	21,643,023	24,562,123	⑤
謝金	591,715	191,573	
印刷製本費	23,684	5,540	
会議費	12,963	121,872	⑥
交際費	0	5,509	
旅費交通費	2,080,422	2,015,230	⑦
通信運搬費	204,819	70,659	
消耗品費	213,619	59,578	
地代家賃	0	30,516	
新聞図書費	6,793	143,203	⑧
支払寄附金	0	120,000	⑨
支払手数料	896,156	1,203,235	
雑費	7,000	0	
事業費計	26,371,861	31,550,157	
(2)管理費			
役員報酬	40,000	0	
給料手当	678,907	3,681,407	
法定福利費	125,485	490,274	
福利厚生費	0	13,475	
業務委託費	1,914,200	1,146,400	⑩
謝金	189,000	0	
印刷製本費	93,670	84,440	
会議費	0	23,485	
旅費交通費	131,470	219,971	
通信運搬費	84,139	46,208	
消耗品費	481,323	410,174	⑪
地代家賃	0	45,774	⑫
減価償却費	0	33,687	
諸会費	0	10,000	
租税公課	7,325	4,200	
新聞図書費	0	1,980	
研修費	12,650	3,200	
広告宣伝費	0	330,000	⑬
支払手数料	748,899	404,785	
管理費計	4,507,068	6,949,460	
経常費用計	30,878,929	38,499,617	
当期経常増減額	9,709,143	△10,281,292	
経常外収益	0	0	
経常外費用(過年度損益修正損)	0	384,400	
税引前当期正味財産増減額	9,709,143	△10,665,692	
法人税、住民税及び事業税	0	0	
当期正味財産増減額	9,709,143	△10,665,692	
前期繰越正味財産額	1,756,148	11,465,291	
次期繰越正味財産額	11,465,291	799,599	⑭

1

受取寄附金

前期より約3.2割の減収となりました。昨年度は地震支援で集中的にご寄付が集まったためです。パートナー会員様の継続的なご寄付は約546万円で、約136万円増収しました。2023年9～10月に実施したクラウドファンディング約773万円が含まれています。

2

受取助成金等

前期より約2.7割の減収となりました。LUSHチャリティバンク、フェリシモなど、6件の助成金を獲得しました。

3

事業収益

講座・情報発信事業として、講演謝礼、イベント参加費、株式会社With The World様との教育機関向けオンライン授業(シリア人学生との交流)への謝礼が含まれています。今期は多くの講演機会をいただき、前期より1.6倍に増収しました。

4

給料手当(事業費)

今期より、事務局職員に加え、ファンドレイジングマネージャーとしてフルタイムの職員1名を雇用開始しました。(管理費との按分を行っています)

5

業務委託費(事業費)

教育支援、地震に対する支援として現地に届けた金額です。当団体は、現地提携団体を通して事業運営を行っているため、現地送金額が「業務委託費」となります。幼稚園の受け入れ生徒数の拡大や円安の影響もあり、前期より300万円ほど増加しました

6

会議費(事業費)

出張を実施し、現地事業の確認のほか、様々な団体と新事業協働の可能性を見出すために会議を実施しました。

7

旅費交通費(事業費)

代表中野、広報ファンドレイジング職員坂田がトルコへ出張しました。中野は新事業開拓のため、ヨルダン・アルメニア・レバノンを合わせて訪問しました。

8

新聞図書費(事業費)

文化事業立ち上げにあたり、各国の文化保護の取り組み事例を学ぶべく多くの書籍からのインプットに費やしました。

9

支払寄附金(事業費)

当団体の支援が届いていない地域で、シリア地震の被災者支援を行う他団体に寄付を届けました。

10

業務委託費(管理費)

広報・ファンドレイジング非常勤スタッフ1名、税理士事務所、JICS助成によるファンドレイジング伴走支援への業務委託費が含まれています。

11

消耗品費(管理費)

ウェブサイト管理費、ドメイン料、サーバー管理費、会計ソフト使用料などが含まれています。

12

地代家賃(管理費)

フルリモート勤務のため、職員1名のコワーキングスペースを契約しています。(事業費との按分を行っています)

13

広告宣伝費(管理費)

パートナー会員訴求のための特設ページを作成しました。一部費用をJICS NGO支援事業によって拠出しています。

14

次期繰越正味財産額

安定的に成長する日本のNGOの運営規模と言われている1億円を目標としており、本年度は新規職員雇用や、新事業の発掘のための投資を積極的に行いました。そのため、本年度の繰越金は約80万円となっています。今後も、安定性と成長を両立を目標に、挑戦を続けていきます。

この活動計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、NPO法人Piece of Syriaの収支を正しく示していることを認めます。

監事:武田 祐輔 会計顧問:長田和弘税理士事務所

パートナー会員として応援する

継続的にご支援いただくことで、柔軟で安定した教育支援をシリアの子ども達に届けることができます。右記QRコードからお申込みいただけます。



ご支援の方法

都度寄付で応援する

単発寄付も受け付けています。
クレジットカードまたは銀行振り込みからご寄付いただけます。右記QRコードからお申込みいただけます。



銀行振込

楽天銀行 (0036)
口座名: トクヒ)ピースオブシリア
支店名: 第三営業
支店番号: 253
口座番号: (普通) 7246297

※直接振込をご希望の方は、振込人名義の冒頭に「キフ」を付けてください。
※匿名をご希望の方は、振込人名義を「キフ トクメイ」にしてください。
※恐れ入りますが、振込手数料はご負担をお願いしています。

あなたのご支援でできること



monthly
毎月

1,000円のご支援で(心のケア)

戦争・地震によって、心にトラウマを抱えてしまったシリアの子ども3人に、専門家による心のケアのためのアクティビティが実施できます。



monthly
毎月

3,000円のご支援で(教育支援)

避難生活で収入が安定していない家庭を対象に、授業料だけでなく筆記用具・バッグ・教科書や安全に通園できるバスを提供し、無料で教育を受けることができますようになります。



monthly
毎月

10,000円のご支援で(先生サポート)

支援が届きにくい地域では、先生達が無給になることも。先生たちの安定的に給与を届けることで、家族を守りながら教師を続けられます。(1年間のご寄付で半年分)

運営体制

役員・職員

中野 貴行 (創設者・代表理事)
金澤 鮎香 (理事・職員)
鈴木 のどか (理事・職員)
坂田 実緒子 (職員)
島 彰宏 (職員)

監事

武田 祐輔

会計顧問

長田和弘税理士事務所

プロボノ

鈴木 慶樹
伊藤 広
石井 貴幸

アドバイザー

大原 和司さん(株式会社アビタシオン 相談役)
久保田 賢一さん(関西大学名誉教授 / NPO法人学習創造フォーラム代表)
小松 太郎さん(上智大学 総合人間科学部教育学科 教授)
高橋 祐子さん(日本精機(株) 代表取締役)



NPO法人Piece of Syria

〒558-0033
大阪市住吉区清水丘1-15-23

contact@piece-of-syria.org

https://piece-of-syria.org/

SNSでPiece of Syriaとつながる

Facebook: piece.of.syria
Instagram: piece.of.syria
Twitter: piece_of_syria
YouTube: PieceofSyria

